

# 鶴田町農事普及だより

（4月号 令和7年4月1日～4月30日）



〈発行〉鶴田町／鶴田町農業支援センター／鶴田町農業振興課  
つがるにしきた農業協同組合鶴翔統括支店  
西北農林水産事務所農業普及振興室

## 農作業事故に気をつけましょう！

記録的な大雪でりんご産地の積雪被害が深刻化する中、剪定作業の大幅な遅れも指摘されています。  
春以降は施肥や防除など他の作業もあるため、焦りから農作業中の事故が起きやすいです。



ここから見てね!!



（青森県作業安全動画）

## りんご・ぶどう雪害対策助成事業をご利用ください！

町では、りんご・ぶどうの雪害対策助成事業を実施しております。申請は随時受付しておりますので、詳細は、町ホームページをご覧ください。



ここから見てね!!



（鶴田町ホームページ）

| 事業名         | 補助率         | 上限            | 内 容                                                       |
|-------------|-------------|---------------|-----------------------------------------------------------|
| りんご雪害対策助成事業 | 購入経費の3 / 10 | 858円 / 10 a   | 豪雪による、りんごの樹体損傷等による被害を軽減するため、枝折れ箇所に塗る塗布剤の購入経費に対し助成。        |
| ぶどう雪害対策助成事業 | 購入経費の3 / 10 | 9,000円 / 10 a | 豪雪による、ぶどう関連設備（うで木、番線等）の破損等から早期復旧を図るため、補修又は取替えに要した経費に対し助成。 |

町農業委員会では、年3回農地パトロールを実施し、遊休農地や、放任園等の発生防止に取り組んでいます。  
農地の貸借や売買については、町農業委員会へご相談ください。



## 山火事防止運動強調期間実施中

（4月1日～6月10日）

春は空気が乾燥し、火災が発生しやすい時期です。剪定した枝等をやむを得ず園地で焼却する場合、山火事など火災の発生防止を徹底してください。

## 農薬適正使用と隣接農地への飛散防止に十分気をつけましょう！

- 使い残した農薬などは、河川等へ絶対捨てない。
- 農薬を使用する場合には、必ず最新の「農薬登録情報」を確認しましょう。
- 農薬は鍵のかかる専用の場所に保管し、管理を徹底しましょう。



## 登録品種に関する注意喚起

- 登録品種の種苗・収穫物等を利用するには、原則として権利者の許可が必要です。
  - 育成権者の許可を得ずに、自家採取した登録品種の種苗を近所の農家等に配布することは種苗法に違反します。
  - 他都道府県で開発された品種によっては、作付けできる都道府県が限定されている場合があります。
- 登録品種かどうかの確認は品種登録ホームページ（<http://www.hinshu2.maff.go.jp>）で行い、正規のルートで種苗を入手しましょう。
- 育成権者を侵害すると民事請求を受けたり、刑事罰を科される場合があります。

（農林水産省品種登録ホームページ）



### \*気象\*

（令和7年3月20日  
仙台管区気象台発表  
東北地方1か月予報より）

向こう1か月の天候は、数日の周期で変わる。特に期間の始めは、気温がかなり高くなる見込みである。

平均気温は、高い確率50%である。  
降水量は、多い確率40%である。  
日照時間は、少ない確率40%である。



### \*水稻\*

初期生育確保のために、健全な苗を育てましょう！！

### 1. 育 苗

#### (1) 浸 種

浸種は10日～14日間程度（日平均積算水温で100℃が目安）とし、浸種時の水温は10℃以下にならないようにする。**低水温で浸種した場合、日平均積算水温で100℃を確保しても、出芽不良や出芽遅れの原因となる場合があるので注意する。**

#### (2) 催 芽

育苗器などを利用し、吸水させた粉を30～32℃で16～20時間加温し、ハト胸程度（芽の長さ0.5～1mm）にする。

「はれわたり」は「まっしぐら」等よりもハト胸状態に達するまで時間を要するので、別々に確認する。

温度が40℃以上になると発芽率が低下するので、特に風呂を使う場合は注意する。

#### (3) は 種

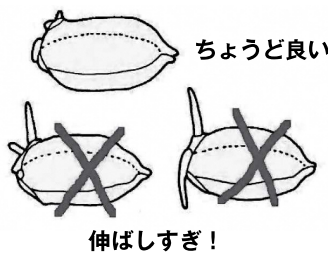
中苗のは種量は、1箱当たり乾粉で100g（催芽粉で125g）とし、厚播きにならないよう注意する。

#### (4) 育苗土の準備

ふるいにかけた育苗土は、床土と覆土を合わせて1箱当たり5ℓ程度準備する。施肥量は、中苗散播・基肥方式で窒素・リン酸・加里を成分量で1箱当たり各2.5gとする。

#### (5) 苗立枯病の予防

床土はpHが4.5～5.5の土を使用する。pHが高い場合はpH調整剤で調整する。育苗中は適温を保ち、過湿や過乾燥を避ける。



ちょうど良い

伸ばしすぎ！

### ■ 薬剤による主な防除方法

| 適用病害            | 剤型 | 粉剤（土壌混和剤）                      | 液剤（は種時かん注）                                |
|-----------------|----|--------------------------------|-------------------------------------------|
| ビシウム菌<br>フザリウム菌 |    | タチガレエースM粉剤 8g / 箱<br>ナエファイン粉剤  | タチガレエースM液剤 1000倍液を1ℓ / 箱<br>ナエファインフロアブル   |
| リゾープス菌（くものすカビ）  |    | ダコニール粉剤 15～20g / 箱<br>6～8g / 箱 | ダコニール 1000 1000倍液を1ℓ / 箱<br>2000倍液を1ℓ / 箱 |

#### (6) 置床の準備

##### ㊦ ハウス育苗方式

置床は育苗箱の底と密着するよう均平にする。砕土が不十分な場合や足跡等のくぼみがあると生育ムラができるので十分注意する。

##### ㊦ トンネル折衷育苗方式

置床の硬さは耳たぶ程度に調整し、必ず排水溝を設ける。やわらかく、育苗箱が床土に沈み込むようだと、過湿による出芽障害となるので注意する。

#### (7) 温度管理

生育に合わせた温度管理を行うため、必ず温度計を苗の高さに設置する。

##### ㊦ 出芽期まで

日中35℃以下。ハウスではシルバーポリトウなどの被覆で、水分保持と保温をする。**天気の良い日には、出芽前でも換気を行い、35℃以上にならないように注意する**（シルバーポリトウは風でめくれないう、箱下に折り込むか、重しを置く）。

##### ㊦ 出芽揃期～1.5葉

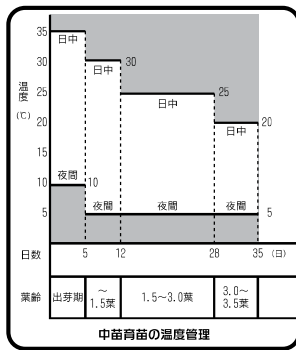
日中30℃以下。ハウスの大部分の箱で7～8割程度の出芽が見えたら、早めに被覆資材を除く。持ち上がった覆土はかん水等で落ち着かせ、種粉が露出していたら土をかける。

##### ㊦ 1.5～3葉

日中25℃以下。

##### ㊦ 3葉以降

日中20℃以下。天気の良い日は外気に慣らし、苗を丈夫に育てる。



中苗育苗の温度管理

### ※霜・低温が予想される場合

被覆資材での二重被覆を行うか、ハウス内に暖房器具を入れて保温する。

#### (8) 水管理

かん水は、床土が乾いたら午前中（地温が上がる前）にたっぷり行う。機械的に毎日かん水すると、箱内の根張りを弱くし、軟弱徒長苗になりやすいので注意する。

#### (9) 追 肥

葉色が淡くなったら、かん水を兼ねて追肥する。1箱あたり500mlの水に硫酸を現物で5g溶かして行う。追肥後は必ず水洗いする。  
「新ロング入り苗箱専用肥料」を使用した場合には、追肥は行わない。

## 2. 本田作業

### (1) 施肥（基肥）

品質と食味向上のため、窒素の総量は、「まっしぐら」・「はれわたり」の場合7～10kg / 10aとする。基肥量は1回追肥体系の場合は総量の7～8割、2回追肥体系の場合は総量の6割とする。いずれの品種も側条施肥の場合は、基肥を2割減ずる。  
「青天の霹靂」の基肥窒素成分は6kg / 10a以内とし、全層穂肥1回追肥体系を原則とする。

多肥栽培では、倒伏したり、いもち病にかかりやすくなるほか、食味・品質の低下につながるため、前年のいもち病の発生程度や倒伏状況に応じて基肥量を加減する。

大豆の復元田では、生育が過剰となり、倒伏のおそれがあるので基肥8割減～無肥料とし、追肥は生育量や葉色を見て判断する。小麦の復元田では、基肥4～6割減とし、生育に応じて追肥を行う。

復元田では、倒伏軽減と初期生育確保、登熟向上のため、ケイカルとようりんを施用すると効果的である。

### (2) 耕起・代かき

耕起作業は耕起深15cm程度を目標にしていねいに行う。  
稲わらを鋤き込んだ水田では、浮きわらを抑えるため水深を浅めにして代かき作業をする。



### \*りんご\*

春作業の準備を急ごう！

今年は積雪が多く、主幹の裂開や下岐の欠損などの樹体損傷、野ネズミによる被害が確認されているので、被害樹に対する処置を行う。りんごの発芽は平年並と見込まれるが、発芽後は耐寒性が急激に低くなり、開花期が最も寒さに弱いため、結実確保に向け、低温や降雪への対策を行う。  
また、自園地の生育状況を確認し、SSの試運転などを行うなど防除体制を整える。

## 1. 雪害を受けた樹の処置

### ㊦ わい性台樹

側枝のゆがが可能な場合は、早い時期にビニールなどできつく縛って傷口を密着させ、ひもなどで吊り上げる。

側枝が不足となった樹は、目傷等により側枝の発生を促したり、主幹部に接木をして側枝の補充を図る。

### ㊦ 普通台樹

回復可能な枝は傷口を密着させて、かすがいやボルト等で補強し、支柱で支える。  
樹形を損ねる被害を受けた樹では、徒長枝を利用したり、高接ぎ（長穂接ぎ）などで樹形の立て直しを図る。

## 2. 野ネズミ被害樹の治療

樹幹を食害された場合、樹皮が幹周の4分の1以上残っているものは早めにバッチレートを塗るか、テープなどを巻いてカルス形成を促す。

## 3. 霜害防止対策

安定生産のため、霜害防止対策には万全を期す。一般に、降霜は晴天無風で、前日午後7時の気温が6℃以下のときに危険性が高い。霜害が予想される場合には、気象台から霜注意報が発令されるので、これらの情報に注意する。

### ■ 燃焼法による防止

| 種 類     | 利 用 方 法                                               |
|---------|-------------------------------------------------------|
| A重油オイル缶 | 4リットル缶を利用する場合、10a当たり30缶以上を配置する。                       |
| 霜 カ ッ ト | おがくず：灯油＝2：1（容量）の割合で混ぜたものを2kgずつ袋に詰め、10a当たり40～60個を配置する。 |

- 注) 1 灯油の保管量が200～1000ℓ：少量危険物貯蔵届出書の提出が必要  
2 灯油の保管量が1000ℓ以上：危険物取扱者の資格が必要  
3 所轄の消防署に「火災と紛らわしい煙又は火災を発生する恐れがある行為の届出書」などを提出する。

## 4. 粗皮削り

粗皮削りは、胴腐らんの早期発見やハダニ類、ハマキムシ類など病害虫防除のため、必ず実施する。



## 5. 基 肥

基肥は雪どけ後、速やかに行い、遅くても4月20日頃までに施用する。石灰質肥料は基肥を施用後、降雨があった場合は2～3日後に、降雨がない場合には2週間後を目安に施用する。

肥料の施用量は裏面のとおりであるが、追肥を計画している園地では、窒素分の6割を基肥とする。

果実の着色が良くない園地や樹勢が強すぎる園地では、施肥量（特に窒素成分）を減らして樹勢が適正になるか観察し、追肥で調整する。

### ■ りんごの標準施肥量（年間総量、園地全面施用）

| 区 分    |       | 施肥量（kg/10a） |     |     | 備 考                           |
|--------|-------|-------------|-----|-----|-------------------------------|
| 普通台樹   | わい性台樹 | 窒 素         | りん酸 | カ リ |                               |
| 成 木    | 6年生～  | 15          | 5   | 5   | 部分（樹冠下）<br>施肥の場合は、<br>施肥量を減ずる |
| 6～10年生 | 4～5年生 | 10          | 3   | 3   |                               |
| 1～5年生  | 1～3年生 | 5           | 2   | 2   |                               |

## 6. 病害虫防除

今年は生育の進みが早いと見込まれることから、散布適期を逃さないよう注意する。この時期の散布間隔は10日以内を厳守し、適正な散布量で丁寧に散布する。

散布予定日に降雨が予想される場合は、**事前散布**に徹する。

### ■ 薬剤散布（散布時期は生育状況により変わるので、新しい情報を参考にする）

| 散布時期                      | 基 準 薬 剤                                               |                                  | 散布量<br>ℓ/10a | ※SDHI剤は、以下の5剤から<br>選択する。<br>ネクスターフロアブル<br>1,500倍<br>フルーツセイバー<br>2,000倍<br>ロンセラーフロアブル<br>3,000倍<br>カナメフロアブル<br>4,000倍<br>パレード15フロアブル<br>2,000倍 |
|---------------------------|-------------------------------------------------------|----------------------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ふじの<br>展葉1週間後頃<br>（4月下旬頃） | マシン油乳剤<br>ペフラン液剤25                                    | 200倍<br>1,000倍                   | 300          |                                                                                                                                               |
| ふじの開花直前<br>（5月上旬頃）        | SDHI 剤 ※                                              |                                  | 320          |                                                                                                                                               |
| ふじの落花直後<br>（5月中旬頃）        | ミギワ20フロアブル<br>＋<br>デランフロアブル<br>又はチウラム剤 ※<br>又はマンゼブ剤 ※ | 4,000倍<br>1,500倍<br>500倍<br>600倍 | 350          |                                                                                                                                               |
|                           |                                                       |                                  |              |                                                                                                                                               |

## 7. 腐らん病対策

近年、発生が多く、雪害による樹体損傷部からの感染拡大も心配される。早めに被害部の切除や治療を行って、感染拡大を防ぐ。

枝腐らんは見つけ次第、切り取って適切に処分する。

胴腐らんは再発病斑を含め見つけ次第、次のいずれかの処置を行う。

- ⑦ 泥巻きを行う場合は、周辺健全部を含めて病患部に厚く泥を張り付ける。
- ⑧ バッチレートまたはフランカッスプレーを使う場合は、周辺健全部を含めて病患部を紡錘形に削ってから塗る。
- ⑨ トップジンMオイルペーストを使う場合は、病患部を削り取り、さらに浸透性を高めるために周辺の健全表皮（上下約5cm、左右2～3cm）を薄く削ってから塗る。なお、再発してしまった場合には、⑦か⑧の方法に切り替える。
- ⑩ 胴腐らんの発病が著しい樹は、病原菌の伝染源になるので積極的に伐採し、適切に処分する。

## 8. マメコバチの放飼と管理

放飼時期を調節するため、筒内の蜂が動き始め、カチカチと音がするようになった頃に、0～5℃の冷蔵庫に保管する。

展葉1週間後頃の薬剤散布2～3日後に冷蔵庫から出し、放飼する。また、土取り場や防鳥網の設置などの管理も怠らないようにする。

## 9. 人工受粉による結実確保

結実確保のため、マメコバチによる受粉だけでなく、積極的に人工受粉を行う。

## 10. 機械の点検整備と事故防止

4月は、農作業が本格化する時期である。今年は雪どけ水の影響で土壌が緩んでいると想定され、機械作業による重大な事故が発生しやすい条件であることから、走行路や枝の出具合などを確認し、転落・横転・衝突しないよう園内を整備する。

また、スピードスプレーや草刈り機、高所作業台車等の使用前には必ず点検し、基本操作を守って使用し、事故防止に努める。

## 特産果樹

# \*おうとう\*

摘芽で大玉生産、霜害防止  
対策を徹底しよう！！

### 1. 野ネズミ被害樹の治療

樹幹を食害された場合、樹皮が幹周の4分の1以上残っているものは早めにバッチレート  
を塗るか、テープなどを巻いてカルス形成を促す。

### 2. 霜害防止対策

りんごと同様、霜害対策には万全を期す。（詳細はりんごの項3を参照）

### 3. 摘 芽

紅秀峰は着果量が多くなりやすいので、催芽前（4月上旬頃）までに摘芽を行う。花束状  
短果枝の大きい花芽を3芽程度残して、他の花芽を指でかき取る。葉芽（○印で囲んだ芽）  
は残し、人工授粉は必ず行う。

なお、晩霜の常襲地帯や花芽の少ない樹、樹勢の強い樹では行わない。



### 4. 結実確保

おうとうの開花期は、低温や強風に遭遇することが多い時期であることから、マメコバチ  
を導入している園地であっても、毛ばたきによる人工授粉を徹底する。  
毛ばたきは5分咲き頃と満開期に、少なくとも2回実施する。

## 5. 病害虫防除

「開花直前」以降は、散布予定日に降雨が予想 される場合は、**事前散布**に徹する。

### ■ 薬剤散布（散布時期は生育状況により変わるので、自園地の状況を確認する）

| 散布時期             | 基 準 薬 剤                                                |                                      | 散布量<br>ℓ/10a | ※マシン油乳剤（97）<br>トモノールS<br>ハーベストオイル<br>※チウラム剤<br>チオノックフロアブル<br>トレノックスフロアブル<br>※コスカシバの発生が多い<br>園地では、開花前までに<br>フェニックスフロアブル<br>500倍を樹幹部に十分か<br>かるように <b>手散布</b> する。 |
|------------------|--------------------------------------------------------|--------------------------------------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 発 芽 前            | マシン油乳剤（97） ※                                           | 50倍                                  | 350          |                                                                                                                                                                |
| 開花直前<br>（4月下旬）   | オーソサイド水和剤80<br>又はチウラム剤 ※                               | 800倍<br>500倍                         | 450          |                                                                                                                                                                |
| 満開5日後頃<br>（5月上旬） | バスタード顆粒水和剤<br>又はオンリーワンフロアブル<br>又はラリー水和剤<br>又はオーシャイン水和剤 | 1,500倍<br>2,000倍<br>2,000倍<br>3,000倍 | 500          |                                                                                                                                                                |
|                  |                                                        |                                      |              |                                                                                                                                                                |

# \*ぶどう\*

休眠期防除は黒とう病や晩  
腐病防除の要！  
必ず散布する！！

### 1. 園地の点検

雪で傾いた支柱や破損した腕木を修繕し、架  
線の緩んでいるものは張り直して、主枝を結束  
し直す。また、病害の発生源となる架線上の巻きひげや成り跡、粗皮を除去し処分する。

### 2. 野ネズミ被害の事後対策

野ネズミの食害により回復が見込めない場合は、苗木更新する。

### 3. 施 肥

基肥を秋に施用している園地では、4月上旬に全量の10%を追肥として施用する。また、  
春に基肥を施用する園地では、全量の60～80%を施用する。

昨年の8月の大雨の影響で樹勢が弱くなった園地では、施肥の判断は樹の生育状況をみて  
行う。

### ■ ぶどう成木の標準施肥量（kg/10a）

| 区 分           | 窒 素  | りん酸 | カ リ |
|---------------|------|-----|-----|
| 全 量           | 15   | 10  | 10  |
| 春が追肥の場合（秋に基肥） | 1.5  | 1   | 1   |
| 春が基肥の場合       | 9～12 | 6～8 | 6～8 |

## 4. 病害虫防除



ぶどうの催芽

休眠期は、黒とう病や晩腐病の重点防除時期であるため、発芽\*前に  
**必ず**薬剤散布する。

自園地のぶどうの生育をしっかりと観察し、散布が遅れないよう注意す  
る。

- ※1 発 芽：葉の緑色が見えた状態
- ※2 発芽日：樹全体の20%以上の芽が発芽した日
- ※3 平年の催芽日（「スチューベン」）：4月30日  
（平成17年～令和6年の平均値、調査地は鶴田町境）

### ■ 薬剤散布（「スチューベン」、「シャインマスカット」）

| 散布時期            | 基 準 薬 剤                                |                      | 散布量<br>ℓ/10a            |
|-----------------|----------------------------------------|----------------------|-------------------------|
|                 | 殺 菌 剤                                  | 殺 虫 剤                |                         |
| 休 眠 期<br>（4月中旬） | デランフロアブル<br>又はパスポート顆粒水和剤<br>又はベンレート水和剤 | 200倍<br>250倍<br>200倍 | ガットキラー乳剤<br>100倍<br>200 |

- 注）1. 「シャインマスカット」：黒とう病の発生が多い園地では、デランフロアブルを選択する。  
2. ベンレート水和剤を使用した場合は、チオファネートメチルを含む剤（グッター水和剤等）  
を使用しない。チオファネートメチルを含む剤（グッター水和剤等）を使用する場合は、ペ  
ノミルを含む剤（ベンレート水和剤等）を使用しない。  
3. ツマグロアオカスミカメの多い園地では、展葉直前の5月上旬頃にモスピラン顆粒水溶剤  
2,000倍を特別散布する。

## 5. 霜害防止対策

晩霜のおそれがあるため、霜害対策には万全を期す。（詳細はりんごの項3を参照）  
ハウスぶどうでは、暖房器具（石油ストーブ）を用いてハウス内を加温する。

# \*野菜\*

## トマト

温度変化が激しい時期、き  
め細かな温度管理に努めよ  
う！

### 1. 定植準備

ハウスのパイプ等の歪みや、被覆ビニールの破損がないか確認し、早めに修復する。  
土壌が乾燥している場合、耕起前に散水し、手で軽く握って崩れない程度の状態で耕起す  
る。  
堆肥や改良資材等は定植1か月前、基肥は定植2週間前を目安に施用する。

### ■ 標準施肥量（kg/10a）

| 窒 素   | りん酸   | カ リ   | 備 考                                               |
|-------|-------|-------|---------------------------------------------------|
| 10～12 | 28～35 | 10～12 | 冬期間、屋根のフィルムを除覆しない場合、肥料が<br>残るため、基肥量は土壌分析に基づいて減ずる。 |

定植の7～10日前にはマルチを張り地温を高めておく。

### 2. 定 植

定植前日に鉢にかん水する。肥料不足の場合は液肥で追肥を行う。  
深さ10cmの地温15℃以上を確保し、定植を行う。植え付けは、花房を通路側に向け、鉢の  
回りを両手で上から押して土と根鉢を密着させ、根鉢上面と畝面が同じ高さになるように行  
う。植穴を掘ったときに出土は植穴の周囲に盛り土として置き、マルチの熱が逃げないよ  
うにする。  
夜間の冷え込みが予想される場合は、不織布のべたがけや加温機を設置する等、保温に努  
める。

## 【農業の相談はこちらへ】

農業についての各種相談を受け付けております。受付した内容は即時対応  
いたしますので、気軽にご相談ください。  
鶴田町農業支援センター 午前9時から午後5時 ☎22-2111（役場農業振興課）

「農事普及だより」及び「他の  
農作物生産情報等」は町ホーム  
ページにも掲載しております

（農事普及だより） （他の農作物生産情報等画）

URL <http://www.town.tsuruta.lg.jp/kurashi/kurashi-nougyou/post-117.html>